

市立秋田総合病院中期経営計画
【評価結果報告書】

平成24年6月

市立秋田総合病院
中期経営計画評価委員会

◎市立秋田総合病院中期計画評価委員会

委員長 安井 信之 (地方独立行政法人秋田県立病院機構理事長)
副委員長 福島 幸隆 (秋田市医師会長)
委員 伊藤 千鶴 (秋田市保健所長)
堀井 照重 (公認会計士堀井照重事務所)
小松 眞史 (市立秋田総合病院長)

◎市立秋田総合病院中期計画評価委員会開催内容

- 第 3 回 日時：平成 24 年 3 月 21 日(水)
場所：市立秋田総合病院 2 階 ナースセンター
内容：市立秋田総合病院中期経営計画の平成 22 年度
取り組み状況について
- 第 4 回 日時：平成 24 年 6 月 5 日(火)
場所：市立秋田総合病院 2 階 ナースセンター
内容：市立秋田総合病院中期経営計画に関する総合
評価について

◎市立秋田総合病院中期経営計画評価基準

- ・各項目について下記（5段階）による評価

A	特に優れた実績をあげている
B	年度計画通りに実施（達成度が100%以上と認められる。）
C	概ね年度計画を実施（達成度が80%以上100%未満）
D	年度計画が十分に達成されていない（達成度が80%未満）
E	業務の大幅な改善が必要である

市立秋田総合病院中期経営計画評価シート①

区 分		取り組みテーマ (H21年度～H23年度)	H22年度取り組み内容	評価コメント	総合評価	
(1)	急性期病院としての機能強化	診療体制の整備	引き続きDPC（包括支払制度）や7対1看護体制など効率的な運用の維持に努めた。	①DPCによる効果額が増加している。 ②DPCおよび7対1看護体制の運用により増収している。 ③外来看護師の効率的な配置の検討が必要である。（仕事量等の調査）	B	
			チーム医療の充実	①緩和医療分野の活動が、医師の退職により低下している。 ②各医療チームの活動が順調に行われている。		C
			救急体制の強化	①救急看護認定看護師1名を取得している。 ②認定看護師取得や講義等が開催され体制強化が行われている。		B
		医療機器等の整備	長期間使用している医療機器の更新を図るなど、計画的かつ効率的な医療機器整備を行った。	①計画通りの医療機器整備が行われている。	B	
(2)	医療安全対策の強化	医療安全対策の機能強化	各職場から提出された医療事故報告・インシデント報告を基に、定期的で開催される「医療安全対策委員会」において原因分析や再発防止策を協議・検討した。	①医療安全の取り組みが成果を上げつつある。 ②定期的に研修会を開催するなど、計画通り対策強化が図られている。	B	
(3)	地域医療連携の強化	他院との信頼関係構築	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携の会を開催 ・開業医訪問を実施 ・地域連携誌「らしん盤」の発行 	①他院との医療連携は前年度より強化されている。 ②患者紹介率が30%台と低率である。	B	
(4)	公立病院としての特性の発揮 (不採算部門、救急医療、各種教室、専門外来)	不採算部門への取り組み	地域において必要となる救急、結核、精神部門の運営に引き続き取り組んできた。また、救急救命士に対する教育や講習を開催し、技術向上を支援した。	①病床利用率が前年度比較で低下している。 ②病床利用率の最適値が不明なので明確に言えないが、それでも結核病床の46.3%は低すぎるように思える。 ③病床利用率の上昇を図る必要がある。 ④救急救命士への教育等はほぼ前年度通り実施されている。 ⑤精神科病棟の”精神科急性期治療病棟入院料”の算定を目指す。	C	
		健康講座等の実施	健康講座等として定期的に各種教室を開催した。また、専門外来についても実施している。	①広報あきたや新聞などに市立病院の健康講座案内がよく掲載されている。 ②各種教室や講座等の開催はほぼ前年通り実施されている。 ③呼吸教室は市立病院独自であり評価出来る。 ④肝臓教室などの開催回数が多いと感じられる。 ⑤出前健康講座や他の関連機関と共同し市民のための健康講座など積極的な開催が望まれる。	A	

市立秋田総合病院中期経営計画評価シート②

区分		取り組みテーマ (H21年度～H23年度)	H22年度取り組み内容	評価コメント	総合評価	
(5)	医療ニーズに対応するための 方策	診療情報の提供	ホームページや広報あきた、さきがけ広報板、院内大型ディスプレイを活用し市民などへのPRを実施した。	①各種教室や健康講座などの情報提供は計画通り実施されている。 ②ホームページが分かりにくいなど不評であり再検討が必要である。	B	
		患者サービスの強化	相談窓口として外来ナースステーションに看護師を配置するほか、外来待ち時間や患者満足度調査を実施した。	①患者サービスの推進に向け、外来待ち時間調査など計画通り実施されている。	B	
(6)	地域がん診療連携拠点病院の 指定	がん治療体制の充実	秋田県が開催する研修会において、拠点病院と推進病院が情報共有しながら連携を図るほか、がん患者の相談支援に努めた。	①がん相談件数が減少している。 ②がん患者の医療相談体制の充実を図るため、がんサロン設置を検討する。	C	
		緩和ケアチームの活動の 推進	引き続き緩和ケア外来を行ったほか、当院主催の研修会や教室を開催した。	①緩和ケア外来の休診は、サービスの低下と判断される。 ②がん患者における緩和指導を受けた方の実績調査等を通じ、受診率の向上を目指す必要がある。	C	
(7)	人材育成と確保	人材育成と人材確保	臨床研修病院として、研修内容の充実や病院見学・体験学習時の対応するほか、看護師などの実習生を受入れ人材育成に努めた。	①人材育成面で実習生を積極的に受け入れるなど計画通り実施されている。 ②研修医は計画以上に採用されており評価出来る。	B	
		医療クラークの配置	医療従事者の事務負担軽減を図るため、新たに6名の医療クラークを採用し配置した。	①医療クラークについては計画通り採用されている。 ②今後も適正な配置に努めていく必要がある。	B	
(8)	経営健全化の推進	(収入増加策)	診療報酬の加算取得への対応	院内での収入調整会議等において、各科・コメディカルにおける加算取得の状況把握を行った。	①加算取得に関するチェック体制が不十分である。 ②他病院のように「栄養管理指導」等の本来なら請求できる指導料等をきちんと請求できているか否かをチェックすべきである。 ③院内各部門の現状把握は行われている。	C
			患者数の確保	患者数確保のため、引き続き地域医療連携の強化に努めた。	①患者数が全体として減少している。 ②患者数が計画に達していない。 ③逆紹介率の向上を目指すべきである。	C
			医療機器の有効活用	院内各部門との情報共有を図り、医療機器の稼働向上に努めた。	①高度医療機器などの稼働実績が低下している。 ②保有している医療機器の紹介等を積極的に行う。	C
		(費用削減策)	診療材料の適正管理	S P D (診療材料在庫管理システム) を活用し、適正な在庫管理を図った。	①診療材料費が増加している。 ②在庫金額が昨年度より増加している。 ③診療材料の値引率を上げるよう努力が必要である。(コンサル会社を活用)	C
			後発医薬品の採用、 購入単価見直し	・医薬品ベンチマーク、分析システム事業に参加し、データを活用し値引率の改善を図った。 ・経費削減を図るため、後発医薬品への切り替えを実施(効果額約270万円)	①医薬品の値引率を上げるよう努力が必要である。(自治体病院平均12%前後を目標) ②後発医薬品の採用率拡大を図る。	C
			委託業務の内容精査	委託業務における契約内容を精査し、契約方法や仕様書の変更可能業務については、改善しコスト削減を図った。	①業務委託等の契約内容を精査し、コスト削減を図るなど計画通り実施されている。 ②職員における委託内容の理解とコストに対する情報収集が必要である。	B

市立秋田総合病院中期経営計画評価シート③

区分		取り組みテーマ (H21年度～H23年度)	H22年度取り組み内容	評価コメント	総合評価
(9)	財団法人日本医療機能評価機構における認定の更新	医療機能評価認定の更新	平成22年8月の訪問審査に向け、院内受審準備委員会において、諸問題に対する協議・検討を行った。	①医療機能評価の訪問審査を受審し、条件付き認定を受けている。	B
(10)	施設の老朽化への対応	施設設備の老朽化への対応	施設の老朽化が著しいことから、患者の安全を優先し計画的な更新整備を行った。	①優先順位を決め改修を行っている。 ②計画通り施設設備の更新が行われている。	B
(11)	高度医療へ対応するための医療機器の整備等	高度医療への対応	高度医療機器の稼働率向上のため、地域医療連携の強化するとともに、院内各部門との情報共有を図った。	①医療機器の稼働実績件数が減少している。 ②128chCTを導入した影響も考えられるが、リニアック件数が減少しているのは問題であり分析が必要と考える。	C
(12)	未収金対策	未収金回収の強化	簡易裁判所支払督促制度を活用するほか、職員による対象者への電話掛けや自宅訪問催促を実施した。	①未収金回収に関する努力は見られるが回収率が低い。 ②他病院と比較すると徴収率が悪い。 ③引き続き簡易裁判所支払督促制度を有効活用するなど、回収に対する努力は認められる。	C
		未然防止への対応	生活困窮等による医療費の支払い困難な方々に対し、公的扶助を含む社会保障制度の活用等を含めた医療相談体制の充実を図った。	①平成23年度に徴収率が増加したか減少したのかによって評価されるものとする。 ②未払者の減少が見られない。 ③医療相談体制が強化されている。	C
(13)	一般会計からの繰入	原則に基づく一般会計からの繰入	地方公営企業法に定める経費負担の原則に基づき、地方財政計画の積算により一般会計からの繰入を受けた。	①原則に基づき、一般会計から繰入れを受けている。	B
(14)	再編・ネットワーク化および経営形態の見直し	経営形態見直しの検討	経営形態のメリット・デメリットなどの基本的な事項について整理を行い、当院にとって最適な経営形態への移行について検討を行った。	①平成23年1月から経営形態に関する検討を行っている。	B

市立秋田総合病院中期経営計画評価シート④

(1) 収益的収支に係る数値計画の達成状況

(単位：千円)

項目	H21年度 (実績)	H22年度 (計画)	H22年度 (実績)	計画差	達成率 (%)	評価コメント	総合評価
病院事業収益	9,142,956	9,153,150	9,169,773	16,623	100.3	①概ね計画を達成している。 ②外来収益が減少している。	B
医業収益	8,247,374	8,422,832	8,378,254	△ 44,578	101.6		
うち入院収益	5,114,010	5,305,012	5,568,593	263,581	108.9		
うち外来収益	2,747,891	2,753,426	2,488,718	△ 264,708	90.6		
医業外収益	872,598	730,317	785,095	54,778	90.0		
特別利益	22,984	1	6,424	6,423	殆増		
病院事業費用	8,859,331	9,191,077	9,213,292	22,215	99.8	①給与費が前年度実績、計画より大きく増加している。 ②材料費、経費は計画を下回っている。 ③材料費の更なる削減を目指す。(値引率上昇、材料の統一化など)	C
医業費用	8,616,206	8,897,318	8,901,999	4,681	99.9		
うち給与費	4,791,275	4,797,754	5,075,562	277,808	94.5		
うち材料費	2,037,423	2,197,824	2,052,684	△ 145,140	107.1		
うち経費	1,318,201	1,422,849	1,343,818	△ 79,031	105.9		
うち減価償却費等	428,134	435,000	383,251	△ 51,749	113.5		
医業外費用	237,434	255,759	232,348	△ 23,411	110.1		
うち企業債利息	63,476	59,753	54,505	△ 5,248	109.6		
特別損失	5,691	38,000	78,945	40,945	48.1		
経常収支	266,332	72	29,002	28,930	652.2	①収支差引では純損失を計上しているためD評価も考えられる。 ②年度計画において当初から赤字予算としたのには理解に苦しむ。 ③他の自治体病院においても赤字計上しているのでは仕方ないのか。 ④経常収支は計画を大きく上回り達成されている。 ⑤純損失計上により累積欠損金が増加している。	C
収支差引	283,625	△ 37,927	△ 43,519	△ 5,592	87.2		
累積欠損金	2,498,550	3,089,999	2,542,069	△ 547,930	121.6		

(2) 資本的収支に係る数値計画の達成状況 (税込み)

(単位：千円)

項目	H21年度 (実績)	H22年度 (計画)	H22年度 (実績)	計画差	達成率 (%)	評価コメント	総合評価
資本的収入	542,717	577,595	670,703	93,108	123.6	①計画を上回っている。 ②計画以上の借入れが執行され資金調達面では評価できる。	B
うち企業債	174,200	200,000	230,200	30,200	132.1		
うち出資金	366,362	377,595	439,235	61,640	119.9		
資本的支出	987,837	1,028,762	1,061,209	32,447	96.9	①建設改良費が計画を上回っている。	C
うち建設改良費	213,015	238,204	270,937	32,733	87.9		
うち企業債償還金	774,822	790,558	790,272	△ 286	100.0		
収支差引	△ 445,120	△ 451,167	△ 390,506	60,661	115.5	①計画を上回っている。	B

市立秋田総合病院中期経営計画評価シート⑤

(3) 指標に係る数値計画の達成状況

項目	H21年度 (実績)	H22年度 (計画)	H22年度 (実績)	計画差	達成率 (%)	評価コメント	総合評価
企業債残高 (千円)	4,139,909	3,555,550	3,579,837	24,287	99.3	①企業債残高が計画を上回っている。	C
一般会計繰入金 (千円)	1,231,977	1,232,984	1,235,053	2,069	100.2	①概ね計画通りである。	B
職員数 (総職員) (人)	656	656	697	41	94.1	①研修医については、計画以上に確保されている。 ②職員数は計画を上回っているが、これは病院機能を考えるとマイナス要因とは言えない。 ③職員数の増員による収支への影響を分析する必要がある。	A
職員数 (正職員) (人)	466	473	471	△ 2	100.4		
研修医 (一年次) (人)	6	7	9	2	150.0		
入院延べ患者数 (人)	134,398	137,240	131,443	△ 5,797	97.8	①入院・外来ともに延べ患者数が減少している。 ②病床利用率が月によって大きく変動している。 ③他の自治体病院とほぼ同じ傾向である。	C
入院一日平均患者数 (人)	368	376	360	△ 16	97.8		
平均病床利用率 (%)	80.4	82.1	78.6	△ 3.5	97.8		
平均病床利用率 (%) (一般)	83.5	84.8	82.3	△ 2.5	98.6		
外来延べ患者数 (人)	291,726	289,413	289,169	△ 244	99.1		
外来一日平均患者数 (人)	1,205	1,191	1,190	△ 1	98.8		
患者一人当りの一日入院収益 (税込・円)	38,051	38,659	42,366	3,707	111.3	①入院収益はB評価、外来収益はC評価 (他の自治体病院は収益アップしている。) ②入院収益増は、病院機能・運営上はプラスである。	B
患者一人当りの一日外来収益 (税込・円)	9,419	9,515	8,608	△ 907	91.4		
医業収支比率 (%) (医業収益/医業費用)	95.7	94.7	94.1	△ 0.6	98.3	①患者紹介は計画より増加している。 ②人件費については、他の自治体病院より高くかつ計画より3.6%上昇している。 ③概ね計画通りである。	B
経常収支比率 (%) (経常収益/経常費用)	103.0	100.0	100.3	0.3	100.3		
人件費比率 (%) (給与費/医業収益)	58.1	57.0	60.6	3.6	94.1		
患者満足度調査 (入院) (%)	89.8	90.0	90.2	0.2	100.4		
患者紹介率 (%)	26.0	26.0	33.1	7.1	127.3		

※外来診療日数・・・H21年度→242日、H22年度→243日、H23年度→244日

※患者紹介率算定方法 =
$$\frac{\text{紹介患者数} + \text{即日入院救急患者数}}{\text{初診患者数} - \text{休日夜間外来患者数}}$$